

2020 年 11 月 20 日

三菱重工業株式會社社長

取締役社長 泉澤清次 様

謹啓

新型コロナウイルスの禍中に、日本国の将来を見据える気概のもと、自らのリスクと戦略で事業展開なさる泉澤社長はじめ社員の皆さまに敬意を表します。

申しあげるまでもなく企業は永続しなければなりません。今年は戦後 75 年であると同時に貴社創業 150 年にあたります。往時また追うべからず、名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊の過去を過去として誠実に閉じ、未来を拓くべき秋であると思ひお便りさしあげます。非礼をご海容願います。

唐突ですが、テニスの全米オープンで優勝した大坂なおみ選手は、インタビューで「(7枚のマスクで) 伝えたかったメッセージは」と問われ「あなた方はどんなメッセージを受け取ったのですか」と、問い返しました。

泉澤社長は、2007 年より足かけ 14 年間取り組まれている、毎週金曜朝の行動にどのような心象を抱いていらっしゃるでしょうか。

そして 2018 年秋の韓国大法院判決に対する貴社の「応答」が、生存者へどのようなメッセージとして受け止められているとお考えでしょうか。

戦前の歴史が夫々の企業に遺した問題へいかなる解決策を見出していくのか。善きにつけ悪きにつけ「三菱」の名は世人の耳目を引き寄せるものです。

巷には嫌韓の風が吹きすさぶとはいえ、2018 年 11 月 29 日の韓国大法院判決をもとに、社史に刻まれた強制労働の責任に比べ償いを図ることは、コンプライアンスの実践そのものです。経営者として後ろ指をさされるものではないでしょう。ビジネスモデルの変革が突きつけられるコロナ禍の時代は、挺身隊問題の解決をはかる天の時と云えます。

2011 年を前後する協議の経験は今こそ活かされるべきです。アジアとの信頼醸成のために企業の過去を清算する謂わば歴史インフラの構築は、喫緊の経営課題として経営革新に不可欠の事業部門の一つとされるべきであると考えます。

創業百年を期して 1970 年に定められた貴社の社是は、岩崎小彌太翁の三綱領「一所期奉公、処事光明、立業貿易」にならい「社会の進歩、公私の別、世界的視野」を謳うものと仄聞します。遺憾ながら現下の挺身隊問題のありようはこれと相反するものではないでしょうか。

朝鮮の少女たちに対する人権蹂躪の責任は 75 年間も放置され、自社内部の歴史問題を解決できないがゆえに日韓の善隣関係すら大きく阻害している現状を、アジア地域との歴史的な目配りに立っているものとお考えですか。

歴史的責任とは過去に対してだけではなく今日と未来に対するものであります。貴社の古い社報は、1945 年 8 月当時に合計 34 万 7974 人が三菱全体で所属、と記していると聞きます。その 35 万人の中に、279 名とされる名古屋三菱・朝鮮女子勤労挺身隊の少女たちが含まれているのです。彼女たち一人ひとりの人生を受けとめることは、22 世紀へと企業の現在と将来を切り拓いていく若い社員への信義であり責任でもあると思います。

論語（雍也第六 12）には「行不由徑（ゆくにこみちによらず）」とあります。歴史の大道を歩み続けるうえで、気づくに遅すぎることはなく、いわんや革（あらた）むるに早すぎるということもあり得ません。受難当事者との誠心の交わりにより、アジアとのかかわりで憾みを遺してきたと云わざるを得ない社史に、名誉と安寧の頁がくわえられる日が一日も早く訪れることを祈っております。1944 年暮の名古屋空襲下にも命がけで働いていた先輩女性社員から「会えて良かった」と言われる最初の社長になって頂けますよう、泉澤社長が下されるであろう英断に注目しております。

頓首

韓国大法院判決から 2 年を前に

金曜行動参加者

川見一仁

宛先

〒100-8332

東京都千代田区丸の内 3-2-3

三菱重工業株式会社 御中